

# キラットさん



大館高校 3年  
こうすけ  
**横堀 功介** さん

「頭の切れるひと」。これがクラスの友人の共通した横堀くん評でした。この言葉通り、横堀くんはインタビュー慣れた様子で、落ち着きのあるはつきりとした口調で話を聞かせてくれました。

大館高校を志望したのは、自由な校風にあこがれていたことと制服がブレザーであることが決め手になったそうです。性格は「何にでもストレートで、物事をはつきりと言うタイプ」と分析。クラスでは、体育委員を務め、年間の最大行事である体育祭の運営にも加わりました。「いろいろな苦労もありましたが、終わったら一つのことをやり遂げたという達成感がありました」と感慨深げでした。

趣味はというと、聞いただけでもエアガンや迷彩服などのミリ

タリー用品の収集、ルアー・フィッシング、車、熱帯魚の飼育など幅広いものでした。ルアー・フィッシングの釣りは、もっぱら長木川で、ただ「ここ数年の工事で、川の様子が変わってしまつて、魚がいなくなつてしまつたね」と嘆いていました。また「部屋にある洋服の半分をミリタリー系が占めています」と言うようにミリタリーのコレクションは相当なもの。こんな横堀くんのも趣味は彼が行動的なことを表しているのではないのでしょうか。

得意科目は、国語と世界史。三年生になつての目標を聞きましたら、まず「皆勤賞です。実は狙っているんです」と返つてきました。そして「苦手の数学を中心に、もつと余裕を持つて勉強を頑張りたい」とも話してくれました。将来の夢は、気軽に立ち寄れるアットホームな店を持ち、自分の好きなものを売ることを目指そうです。担任の能嶋先生に彼について聞きましたら「ずけずけとものを言う生徒で、こちらが投げたボールは期待通りに必ず返してくれます」と替辞の言葉でした。そんな先生と横堀くんのやりとりを見ていると、よく言う漫才コンビのようでした。

良い先生と良い仲間にも恵まれた横堀くん。その正直でストレートな性格に磨きをかけることで、これから何か大きなことをやつてくれそうな感じがしました。

## 私の本棚

中央図書館新着図書



『生を踏んで恐れず』  
津本 陽 著  
幻冬社

転職二十回。十四歳で留学したアメリカでは奴隷に売られ、日本では相場師までも経験した高橋是清。労苦と挫折を糧に、卓越した人生観と金融政策で日本の危機を何度も乗り越えた男の生涯を小説化。新聞連載をもとにまとめたもの。

### 一般書

◆論点あきた史(新野直吉) ◆日本人のきた道(池田次郎) ◆「タイム」誌が見た日本の50年・上(「タイム」編集部) ◆スチュワード私私の2万5020時間(永島玉枝) ◆欧州単一通貨ユーロ(日本経済新聞社編) ◆20世紀をつくつた日用品(柏木博) ◆日本百名山登山案内(山と溪谷社編) ◆突破者それから(宮崎学) ◆蝶のかたみ(福高次郎) ◆妖怪(平岩弓枝) ◆あやしい探検隊バリ島横恋慕(椎名誠)

◆ひるの幻よるの夢(小池真理子) ◆五女夏音(辻仁成) ◆箱の夫(吉田知子) ◆ベイ・ドリーム(樋口有介) ◆ぬくもり(藤田宜永) ◆幻覚の鯨・天翔の章(西村寿行) ◆オルガニスト(山之口洋) ◆失踪者(折原二) ◆夏期休暇(長野まゆみ) ◆呪縛・上(高杉良) ◆陽炎の。(藤沢周) ◆ねこの恋(大石静) ◆母の眠り(アナ・クィンドレン) ◆エクスカリパー最後の閃光(バーナード・コーンウエル) ◆少年審判(小林道雄) ◆メイド・イン・ロンドン(熊川哲也) ◆鼓動(中田英寿) ほか

◆一〇〇年目のハッピーバースデー(石田ゆうこ) ◆ズッコケ怪盗Xの再挑戦(那須正幹) ◆うわさの4時ねえさん(大塚篤子) ◆ふたりでのつた新幹線(依田逸夫) ◆どうしたらへらせるかこの有害なダイオキシシン(長崎武昭他) ◆イルカの星(葉祥明) ◆いきものいろいろえらび(セイフ・エディン・ロウタ) ほか

◆4月のテーマ関連図書コーナー  
◆4月の親子読みかせ会  
◆4月の中央図書館の休館日

2日(毎月第一金曜日) 14時30分  
18日、22日、29日

「鳥!」